

標準委員会 リスク専門部会 外的事象 PRA 分科会 地震 PRA 作業会
第 28 回地震 PRA 作業会 議事録

1. 日時：2022 年 4 月 19 日（火）13 時 30 分～16 時 30 分
2. 場所：WebEx
3. 出席者（敬称略）：

【出席委員】高田主査(JAEA)、牟田副主査(都市大)、齋藤幹事(東電)、根岸幹事(原電エンジ)、足立委員(大林)、新井委員(清水)、安中委員(東設)、糸井委員(東大)、宇賀田委員(大成)、内山(泰)委員(大成)、内山(智)委員(CSA-J)、蛭沢委員(電中研)、遠藤委員(MHI)、大鳥委員(都市大)、尾之内委員(中部電)、国政委員(関電)、小室委員(中部電)、近藤委員(鹿島)、高橋委員(鹿島)、崔委員(JAEA)、堤委員(JAEA)、豊嶋委員(NEL)、中村委員(日大)、原口委員(MHI)、樋口委員(東芝 ESS)、藤岡委員(日立 GE)、益田委員(東北電力)、松本委員(関電)、松元委員(構造計画研)、丸山委員(日立 GE)、三浦委員(電中研)、皆川委員(埼玉工大)、村松委員(都市大)、藪内委員(鹿島)、吉田委員(大林組) 【35 名】

【欠席委員】中島委員(電中研)

【出席常時参加者】桐本(電中研)、松中(TEPSYS)、三輪(MHI)、加藤(東芝 ESS)、河津(九電)、佐藤(原電)、小林(北海道電力)、片上(四電)

【欠席常時参加者】松本(原電エンジ)、新崎(NEL)、鈴江(関電)

【オブザーバー参加者】田中(北陸電力)、齋藤(電源開発)、井原(中国電力)

4. 配布資料

- RK6WG1-28-1 第 27 回地震 PRA 作業会議事録（案）
- RK6WG1-28-2 人事について
- RK6WG1-28-3 地震 PRA 標準活用 WG アクションプラン
- RK6WG1-28-4-1 標準委員会コメント対応表
- RK6WG1-28-4-2 誤記チェックの結果について
- RK6WG1-28-5-1 地震 PRA 作業会 検討スケジュール（案）
- RK6WG1-28-5-2 SC87-3-13-1-1_標準策定 5 か年計画(リスク専門部会 2022 年度版(案))
- RK6WG1-28-参考 1-1～2 地震 PRA 作業会 委員・常時参加者名簿、議事録担当
- RK6WG1-28-参考 2 地震 PRA 作業会 検討チーム メンバー構成

5. 議事内容

議事に先立ち、定足数の確認が行われ、36名中29名（確認時点）の出席により作業会が成立していることが確認された。

5.1. 前回議事録の確認

根岸幹事より「RK6WG1-28-1 第27回地震PRA作業会議事録（案）」を用いて、前回議事内容の確認が行われ、議事録が承認された。

5.2. 人事について

根岸幹事より「RK6WG1-28-2 人事について」を用いて、人事の説明が行われ、常時参加者の登録について、承認された。

常時参加者の登録：4名（河津氏、佐藤氏、小林氏、片上氏）

5.3. 地震PRA作業会の今後の活動について

5.3.1. 地震PRA作業会への各電力参画打診の背景について

高田主査より地震PRA作業会への各電力参画打診の背景について説明が行われた。主旨を以下に示す。

- ✓ 地震PRA標準は、2007年に発行され、その後継続的な改定が行われている。
- ✓ 地震PRA標準は、再稼働審査における確率論的リスク評価などで活用されている。
- ✓ 今後は、審査のみならず、再稼働後の継続的な安全性向上においても、地震PRA標準を活用していくべきである。
- ✓ 実際に再稼働をしているPWR電力各社も含めて、地震PRA標準のユーザーである電力に作業会に参加いただくことで、リスク情報活用の現場の意見や事例を技術レポートに反映していきたい。

5.3.2. 地震PRA標準活用WG設置の主旨説明

齋藤幹事より「RK6WG1-28-3 地震PRA標準活用WGアクションプラン（案）」を用いて、地震PRA標準活用WG設置の主旨（目標、活動の方針、活動期間、技術レポートの骨子、予備知識、体制）の説明が行われた。内容について承認され、今後各SWGを中心に活動が進められる。主な議論を以下に示す。

- ✓ 地震PRA標準は、安全性向上の優先順位を明確にするために用いられるべきなので、コストの観点が必要である。
- ✓ JEACなどで定められている決定論の手法の観点を把握した上で、確率論の議論をすることが重要である。
- ✓ 実際に確率論的リスク評価を一気通貫で評価できる体制が望ましいが、現時点では難しいので今後の課題とする。

- ✓ 次世代炉への適用や海外展開も視野に入れた方がよい。
- ✓ 今後は各 SWG を中心に活動を進めるが、各 SWG に作業会メンバー全員が参加し、対応する。
- ✓ 外的事象 PRA 分科会での承認は不要と考えられるが、報告を行うこととする。

5.4. 地震 PRA 標準の改定について

齋藤幹事より「RK6WG1-28-4-1 標準委員会コメント対応表」を用いて、標準委員会によるコメントおよび対応方針の説明が行われた。主な議論を以下に示す。

- ✓ 山本委員長からのコメントに対しては、現在の地震 PRA 標準（案）の構成は変更せず、なぜこのような構成になっているかの理由を説明し、補足を追記する旨を報告する。
- ✓ SSHAC の日本語訳（特に Senior の日本語訳）を検討する。
- ✓ コメント対応方針と併せて修正後の地震 PRA 標準案も標準委員会に提示が必要である。

齋藤幹事より「RK6WG1-28-4-2 地震 PRA 標準の誤記について」を用いて、地震 PRA 標準の誤記の説明が行われた。主な議論は以下に示す。

- ✓ 現在改定作業中の地震 PRA 標準において当該箇所を適切に修正することとする。
- ✓ 2015 年版の地震 PRA 標準については、必要に応じて正誤表を出すことも検討する。

5.5. 地震 PRA の活用に関する勉強会

地震 PRA 標準活用 WG の設置にあたって、海外の活用事例を参照しつつ、基本的考え方に関する勉強会を実施した。

5.6. 今後の予定、その他

根岸幹事より、「RK6WG1-28-5-1 地震 PRA 作業会 検討スケジュール（案）」を用いてスケジュールの周知があった。次回作業会の日程は、2022/7/25 の週で調整する。

地震 PRA 標準活用 WG の SWG の日程は別途調整する。

以上